

# 開発の速さで一步リード。ロムチューンで差をつける。

ナイトスポーツ 〒143 東京都大田区南馬込5-8-5 TEL.03-3375-8448

ナイトスポーツのFDは誰が乗っても気持ちのよい、トータルバランスの高さが強いた。タイムアタックでは上位のタイムが出ているが、街乗りを犠牲にしたサーキット仕様になっているわけではない。

FD3Sのターボチューン用として開発されたスポーツロム、4BEAT FDベーシックは、各種リミッターのキャンセル、適正点火マップ、適正フューエルマップに変換されているうえに、シーケンシャルポイントも調整している。FDのコンピュータチューニングに関しては最も進んでいるファクトリーのひとつだろう。

足まわりも度重ねたテストを経て、セッティング出しが終了している。FD3Sは車高を20mm以上下げるといふ結果を踏まえ、車高ダウンも15mmに抑えている。ダンパーはリバウンド側の減衰力が強化された「スラローム」を使用。これは8段階に減衰力調整が可能だ。スプリングレートはフロントが8kg/mm、リアが5.6kg/mmとなっており、ノーマルに比べ30%のアップになっている。これらの組み合わせで乗り心地を損なわずに操縦性を向上させていく。またリアにはアッパー・アーム、ロアリンク共にトーコンリダクタを組み込みトーコントロールを規制している。

ブレーキに関しては、現在バッドにKYBのメタルを使用、ローターにはスリットを入れているが、今後も引き続き開発を進めていく予定だ。

外観で目を引くのがエアダムスカートとリアのスポイラー。エアダムの形状はフロントアンダーへの気流を減らし、ブレーキダクトホール付。大型スポイラーは3分割タイプで十分なダウンフォースを得ている。

(日下部保雄)



## 5秒台は狙えるクルマだ。

一言で言うと、足の動きがレーシングライク。ステアリングをきた方向にクルマが向いていく。そういう意味では動き方は素直だと言えるだろう。ただしリアのグリップ限界が高いため、コーナリング中に速くアクセルを踏み過ぎるとフロントが逃げる傾向がある。セオリーどおりにきちんとターンインして、それからアクセルオンしていくという走り方を心掛けると、かなりナチュラルに走れる。その上、速い。それも一生懸命攻めて攻めてというのではなく、自然に速いところがいい。エンジンチューニングは煮詰められており、7500rpmシフトで走ったが、特に高回転域の力強さは印象に残った。ただ筑波を念頭に置くなら、もう少し低中速域のトルク感が欲しいところである。相対的にみて、トータルでの完成度はトップクラスにある。もっと周回できれば、5秒台のタイムはマークできたはずだ。

①ナイトスポーツからは、2種類のリアスポイラーが発売されている。これはタイプLと呼ばれているもので3分割タイプ(11万4000円)。

②スプリングはストリート・サス GS300/RD15(4万2000円)。ダンパーはスポーツセッティング・ダンバー「スラローム」(14万8000円)。ブレーキバッドはKYBのメタル。スタビライザーはノーマルを使用。

③今回のタイヤはサーキット走行に合わせヨコハマ・アドバンA-029を選択。ホイールはオプションのマグネットでタイヤ、ホイールともサイズはノーマル。

④室内にはスチール製の5点ロールケージが張りめぐらされ、緊急時に備えて消化器も搭載。

⑤電気式ブーストコントローラーのEBSII(7万2000円)。シーケンシャル・コントローラアダプターを内蔵している。

⑥フルデュアルスポーツマフラー・スティールNS(16万5000円)。

⑦エンジン(オハイバー・スポーツロム4BEATで制御(14万8000円))。

## 大容量インジェクターでブーストに対応。強烈な加速を生む。

### フジタエンジニアリング

〒581 大阪府八尾市太田新町7-202 TEL.0729-49-1313



### 加速フィールは強烈

けしてビーキーではないチューニングを施しているフジタengのマシンは、かなり強烈な加速フィールを提供してくれる。ブースト圧はオーバーシュート1.2kg/cm<sup>2</sup>で最終的には1.0kg/cm<sup>2</sup>に落ちるようセットされていた。エンジンパワーは5000rpm付近で力強さを増し、さらに7000rpmで一気に炸裂するように絞りだされる。当日はガス欠症状が発生し、思うようなタイムアタックができなかったが、それでもパワーの強さは体感できた。ただ強力なパワーを高回転で急激に発揮するため、突然テールリバースに陥りやすい。コーナー進入初期はアンダーステアが強く、ハンドルに頼っての旋回にコツを要した。それでいて、最終的にはカウンターステアを多用する走りを求められたのである。挙動はシャープに仕立ててあるから、チューニングカラーらしい雰囲気は十分に味わえる、辛口マシンである。

①FEEDサスペンションキット(29万8000円)は、サーキットから街乗りりまでトータルに使えるセッティング。またFEEDブレーキバッドは前後各2万6000円。FEEDドリルドブレーキローターは前後各5万2000円。

②インターフーラーはARC。バイブレーターはオリジナルのアルミ製。

③FEED80φマフラー(10万8000円)を装着。94φ(13万8000円)もある。

④レッドメーターセット(ノーマル加工)は15万8000円。スピードメーターは300km/h、タコメーターは1万回転まで日盛られている。

⑤アルミ製のFストラットタワーバー。ノーマルに比べかなり軽量だ。アッシャーで1万8800円、センターのアルミバーだけなら9800円。

⑥FEEDマフロリット(4万2000円)。

⑦タイヤはヨコハマ029R。サイズは前後とも225/50-16。ホイールは16×8JのFEEDレーシングホイール。街乗り用の17インチホイールは8~9.5J(7万5000~7万8000円)。

⑧ツインフィンタイプの「アフラックス」Rスポイラー(12万8000円)。

コクピットで目を引くのは300km/hまで

目盛られたレッドメーターセット。またコ

ンソールのFEED3連メーターパネルには

ブースト計×2と排気温計が埋め込まれ

ている。外観を引き締めているのはアフラ

ックス・リアスポイラー。ツインタイプの流

れるようなデザインのスポイラーが、機能的

的な美しさも訴えかけている。